

平成29年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	教養ゼミ「知る知る信知るゼミ」における地域文化資産を活用した主体的学修プログラムの構築―「信州学」実現に向けた初年次教育―
実施組織 (または対象のカリキュラム)	教養ゼミ「知る知る信知るゼミ」(共通教育開講の教養ゼミ)
※連携する他学部・機関がある場合は記入	あがたの森文化会館, 松本市美術館, 開智学校, 松本城, 松本総合図書館
実施責任者(所属)	西 一夫 (学術研究院教育学系)
取組の目標	本プログラムの目的は、以下の2点を受けて設定される。 1. 長野県教育委員会の「学力向上」政策として高等学校での「信州学」実施 2. 県歌「信濃の国」に対する意識調査の結果分析 【目的】高等教育なかでも初年次教育において地域密着・連携型の教育を実現する一環として本プログラムを位置づける。
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	【事前学修:2回】 1. 4/11(火)昼休み(0.5コマ):授業ガイダンス、実施計画説明 2. 4/23(日)3～4校時(2コマ):実施計画確定、フィールド・ワーク分担 【フィールド・ワーク:3回】 3. 6/18(日)「信州の食」(講義:1コマ、フィールド・ワーク:2コマ) 中央図書館・「みよ田」:信州の食文化について、教員が準備した資料に基づき、地域と特色、意義についての講義を行い、担当グループの資料に基づきながら、フィールド・ワークと昆虫食についての説明を行う。その後、松本の市街地を散策しながら、松本の水文化やそれに伴う食文化の特色を解説する。蕎麦店「みよ田」にて昼食。店主から信州の蕎麦文化についてのお話を伺う。その後、土産物店にてイナゴの佃煮・蜂の子を購入して試食を行う。信州の食文化を体験的に知るワークショップ企画・運営。終了後、各自のリフレクションを行い、課題レポートを提出する。 4. 6/25(日)「信州の温泉」(講義:1コマ、フィールド・ワーク:2コマ) 中央図書館・浅間温泉「ホットプラザ浅間」他:中央図書館にて、「信濃の国」の歌詞を用いて地域と特色、さらに温泉の概要を説明する。浅間温泉の「ホットプラザ浅間」に移動し、休憩スペースを利用して担当グループから浅間温泉の歴史と特色についての資料に基づく解説を行う。その後、入浴して浅間温泉を体験的に知り、休憩スペースでリフレクション実施する。体験的に知るワークショップ企画・運営。終了後、各自のリフレクションを行い、課題レポートを提出する。 5. 7/22(土)「信州の文芸」(講義:1コマ、フィールド・ワーク:2コマ) 中央図書館・あがたの森文化会館・松本市美術館:あがたの森文化会館での旧制高等学校と信州大学人文学部との関係などの講義と資料視察、松本市美術館での草間彌生の作品鑑賞と上條信山の書作品の鑑賞と学芸員による解説。終了後、各自のリフレクションを行い、課題レポートを提出する。

	6. 断続的に松本キャンパスで各グループ毎に資料作成に関しての個別指導を行う（各グループ3回） 【事後学修：1回】 7. 7/23（日）全体総括（講義1コマ）、リフレクション（2.5コマ） 3回のワークショップを通して信州の学びを振り返り、松本を中心とする地域文化の特色について講義を行う。その後、担当グループ毎で各回のフィールド・ワークを振り返り、全体で共有する。さらに全体の授業を受講者全員で振り返りを行い、それらの経験を最終レポートにまとめて提出する。	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 （達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述）	a. 達成できた b. おおよそ達成できた c. 半ば達成できた d. おおよそ達成できなかった e. 達成できなかった	（評価理由） 1. 教養ゼミでの評価体系についての問題点を洗い出し、改善点を明確に得ることが出来た。 2. 受講者の積極的な参加と eALPS とを活用して情報の提供と学修支援を行うことが出来た。 3. 終了時のリフレクション・最終レポートにおいてもおおむね良好な結果を得た。 4. 企画遂行に必要となる基本資料（書籍等）を確保できた。学生の作成資料もある程度の内容が盛り込まれ、参加学生からの評価も高いものを得た。 （今後の展望） 1. 次年度の開講では多角化した内容で授業展開する。 2. 初年次教育としての役割を明らかにする。 3. 高大接続の企画として、近隣高等学校での「信州学」との連携を推進する。 4. 本授業成果を資料集として集約する。